

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 三郎丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

| 主として「知識」に関する問題(A)                           | 主として「活用」に関する問題(B)             |
|---|-------------------------------|
| ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容             | ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力       |
| ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 | ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

#### (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査                       |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

| 本年度の結果 | 国語A   |       | 国語B   |       | 算数A   |       | 算数B   |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 11.0  | 74    | 5.1   | 57    | 11.6  | 77    | 4.9   | 44    |
| 全国     | 11.2  | 75    | 5.2   | 58    | 11.8  | 79    | 5.1   | 46    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

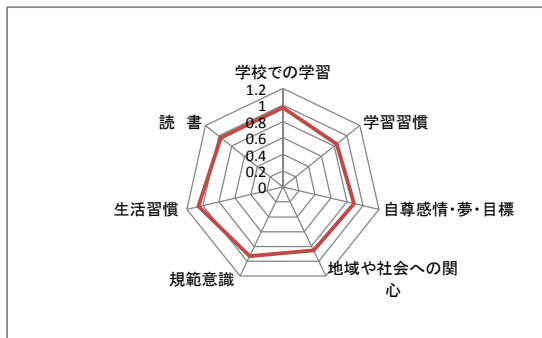
|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均を下回っており、特に漢字の書き取りに無解答率が高かった。<br>・資料から読み取り、正しく選択する問題に課題がある。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | ・俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する問題は、全国平均を上回った。                      |                       |
|     | 努力が必要な問題    | ・複数の資料から読み取って解答する問題は正答率が低かった。                                   |                       |

|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均を下回っており、特に自分の考えを理由づけて書く問題では無解答率が高かった。            | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | ・話し合いの発言の意図を読み取る問題では、全国平均を上回った。                       |                       |
|     | 努力が必要な問題    | ・スピーチメモとグループの話し合いで出された意見をもとに書く問題では、条件を満たして書くことに課題がある。 |                       |

|     |             |  |                       |
|-----|-------------|--|-----------------------|
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均を下回っており、問題や用語の意味が理解できておらず、無解答率が高かったと思われる。<br>・公式が正しく理解し、活用する問題では正答率が低かった。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | ・計算の順序が正しく理解できており、全国平均を上回る正答率であった。   |                       |
|     | 努力が必要な問題    | ・数直線や関係図などをもとにして考える問題については正答率が低かった。  |                       |

|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均を下回っており、与えられた情報から、正しいものを選び、理由を述べる問題では、無解答率が高かった。   | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | ・示された考えをもとに、正しい部分を図に表す問題では正答率が高かった。                     |                       |
|     | 努力が必要な問題    | ・与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉えたり、法則性を見つけたりする問題では無解答率が高かった。 |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析   |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で目標が示されている割合が今年度、全国平均を上回り、90%を越えた。スクールプランに基づき職員間で共通理解した成果である。</li> <li>・テレビゲームやスマホの所持率が高く、1日あたり4時間以上している児童が全国平均のおよそ2倍以上いるのが課題である。</li> <li>・将来の夢や希望をもっている児童は全国平均を上回っている。それぞれの夢を実現するために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけさせることが必要である。</li> </ul> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科・算数科の基礎的基本的な内容の定着を図ることができるように、5校時開始前10分間の「チャレンジタイム」を継続し、全校で一斉に取り組む。</li> <li>・「北九州スタンダードすべての教師のための授業改善ハンドブック」リーフレット版を全職員が手元に置き、「わかる授業」づくり5つのポイントを踏まえた授業実践を行うとともに、「授業改善点検評価シート」による自己評価活動の徹底を図り、授業改善に取り組む。</li> </ul> |
|--|

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の発達段階を考慮しながら、児童の実態に合った家庭学習における自主学習への取組を推進する。高学年に関しては中学校の自主学習を紹介する。校内掲示や学級掲示などで、取り組み方のよい児童を紹介することにより、意欲の向上と継続を図る。</li> <li>・質問事項「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」「においては全国平均を上回っているにもかかわらず、テレビゲームやスマホをする時間の平均は全国を大きく上回っている。「二極化」が進んでいると言える。懇談会や学校だけでなく家庭に規則正しい生活の大切さを呼びかけていく。</li> </ul> |
|---|